

ルンドボックスヘッタの露岩を歩く



森林研究部門 森林防災研究領域 チーム長 竹内 由香里

南極大陸は、その大部分が「氷床」といわれる厚い氷に覆われていますが、沿岸部にはわずかながら（大陸面積の2〜3%）岩盤が現れた露岩地域があります。私はデータの回収や観測機器の保守のために、リュツォ・ホルム湾沿岸の露岩地域4箇所（図1）へ行きました。

野外へ出かけるときは、観測機材と食

料、テント、寝袋など

野外生活に必要な装備

をヘリコプターに積ん

で昭和基地から目的の

地へ向かいます。野外に

滞在中は毎晩、昭和基

地と無線で定時通信し、

メンバーと装備に異状

がないかを報告し、そ

の日の行動と翌日の予

定を伝えます。昭和基

地からは、気象観測担

当の隊員（気象庁）が

発表する気象予報を知

らせてくれます。

ヘリコプターが迎え

に来る日には、出発の

2時間前に現地の風向

風速、視程などを観測

して昭和基地へ連絡し

ます。風が強いとき、雪が

視界が悪いとき、雪が

降っているときにはヘリコプターは運行を見合わせるようになります。悪天のためヘリコプターが飛ばず、野外での滞在日数が延びたり、観測計画の変更を余儀なくされることは、南極では避け難く、観測隊員はそうした様々な状況に柔軟に対応しつつ成果をあげるよう努めています。

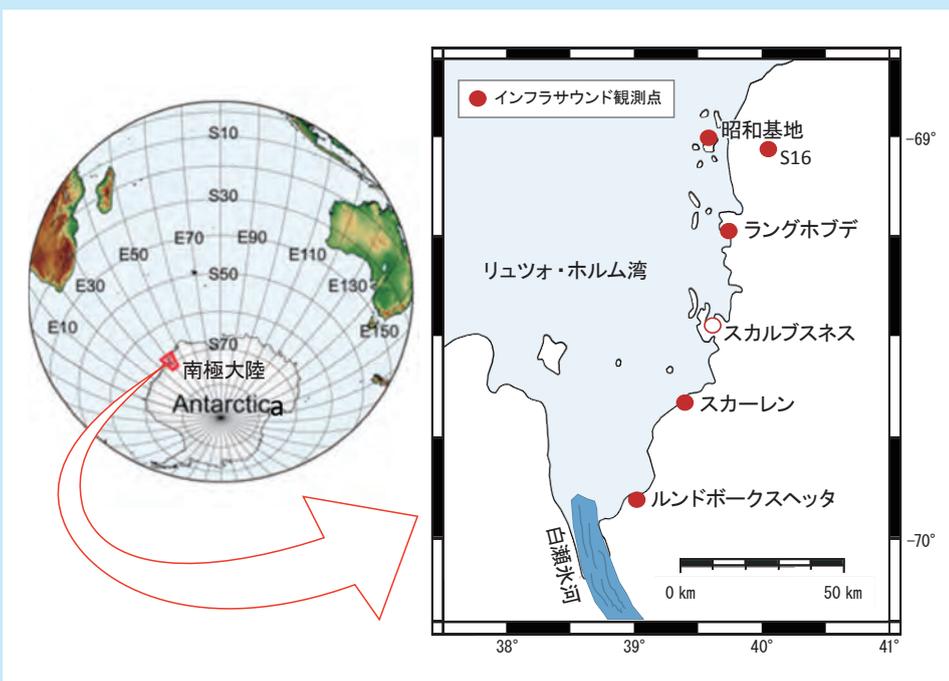


図1 観測のために滞在した沿岸地域



写真1 南極氷床末端のアイスフォール（氷瀑）。近くの観測点では、氷が崩落する際に発生するインフラサウンド（低周波の空気振動）も観測している。（2016年1月10日、スカーレンにて）



写真2 風化して蜂の巣状に穴のあいた岩。左：ルンドボークスヘッタにて（2016年1月8日）、右：スカーレンにて（2016年1月12日）



写真3 左：アデリーペンギンの営巣地。右：海から戻った親鳥にえさをねだるヒナ。（2016年1月25日、スカルブスネスにて）